

協力隊通信

由宇地域担当 小林 琢磨

【自己紹介】



2020年10月1日付で岩国市由宇町(由西地域)の地域おこし協力隊員として由宇総合支所に着任した小林です。新型コロナの影響が各地で冷

めやらぬ中、首都圏から移住してきた私は町民の皆様にご迷惑をかけぬよう万全を期し、由宇総合支所内での2週間の待機期間を経て由西地域デビューしました。協力隊通信第1号、まずは自己紹介させていただきます！私は草津温泉や最近では世界文化遺産に登録された富岡製糸場で有名な群馬県の前橋市で生まれ(草津は前橋から遠いですが・・・)、高校を卒業するまで市内の団地で育ちました。観光大使的な役割で中山秀征さんや井森美幸さんなどがよくバラエティ番組などででていたので群馬といえばそちらの方がピンと来るのかもしれませんがね。群馬県は海に囲まれた山口県とは異なり8県ある「海なし県(内陸県)」の1つで、私が子供の頃は夏休みになると車で何時間もかけて父親の会社の保養所がある湘南・江の島の海水浴場に行く(海を目指す)ことが家族の一大イベントでした。

高校卒業後は東京の大学に進学しそのまま東京でサラリーマン生活を30年近く続けておりましたが、40歳を過ぎたころから自然豊かな中で過ごした子供時代を思い出す機会が多くなり、休日には各地方を旅したり、首都圏で開催されるUIJターンのイベントなどにも参加するようになりました。岩国市の地域おこし協力隊に参加することを決意したときには、友人や岩国の方々に「なぜ岩国？」という質問をたくさんいただきました。岩国市どころか山口県や広島県にすら縁も所縁もなかった私なので、皆様がなぜ岩国？と思われるのも当然でしょう。本庁で

行われた着任式後の新聞記者の方々の取材では、月並みですが『海なし県(群馬)で育った者の憧れで、「海」と「山」の両方の良さを一度に経験できる距離感』を理由として述べていた気がします(新聞社の取材は人生初体験でしゃべることに懸命で詳しく何を話したか自分でもよく覚えていません・・・(汗))。ただ潮風公園を訪れたときに海越しに眺めた島々の夕景はすばらしくこれこそ岩国市の宝だと思ったことは間違いありません。

由宇に来て1か月足らず、目に見えてわかる「海」、「山」、「島」といった分かりやすい魅力しかまだまだ気づけておりませんが、地域おこし活動をしてゆく中で些細な由宇の良いところにも気づき、皆様に発信していきたいと思いますので、皆様もどうぞ由宇の魅力についていろいろ教えてください。よろしくお願い致します。

アサギマダラとフジバカマ(中倉地区)



写真は10月中旬に由西の中倉地区を訪れた際に撮影したもの。市民活動団体「あすなろ会」会長の竹植和江さんによれば、アサギマダラ(蝶)はさまざまな花が周辺に咲く中、たった数本しか植えてい

ないフジバカマに飛んで来るようになったとのこと。この日、フジバカマの周りには2匹のアサギマダラが舞っていました。アサギマダラは渡り鳥ならぬ「渡り蝶」で、なかには1000キロ以上の距離を台湾方面に渡ってゆくものもいるそう。そんな蝶が中倉に数本しかないフジバカマに立ち寄ったのだとしたら奇遇ですね。至近距離で撮影を試みようとして接近したところ、羽の薄水色の部分はシルクのように透き通っていて背景に咲く花々を見通せるほどでした。日本昆虫学会が国蝶を選定する際にはアサギマダラは最終4候補にまで挙がっていたとか。